

京都市国際戦略ビジョン（案）の市民意見募集でいただいた意見を受けた見直し案

第1章 策定にあたって

番号	意見要旨	修正内容
これまでの取組 P3		
6	①の1～3行目に記載されている色々な取組の結果が、国際会議の件数増のみに見えてしまうが、国際会議開催件数の取組よりも国内外の会議主催者に対する誘致プロモーションによる都市の認知度向上や、都市が持つコンテンツの磨き上げが直接的な効果ではないか。	①の本文を以下に修正 京都への文化庁の全面的移転の決定を追い風に、歴史都市・文化芸術都市・環境先進都市など、京都がもつ多彩な魅力向上のための施策や、国内外のメディアや海外拠点を使った情報の発信、 <u>国内外の会議主催者に対する誘致プロモーションによる都市の認知度向上を進めた結果</u> 、市内における国際会議の開催件数が、2019（令和元）年には2008（平成20）年に比べ、2.3倍に増えました。 <u>また、外国からの訪問者が快適に過ごせる環境や京都で学ぶ留学生、外国籍市民等が暮らしやすいまちづくりも進めてまいりました。</u>
7	P3の住民基本台帳登録者数の「永住者」の定義は何か。特別永住者なのか、配偶者ビザなのか。どのような立場の人も（日本人でも）日本に永住するとは限らないので、誤解を生む表現の記載は不要だと思う。	枠外に以下の「永住者」の定義を記載 「永住者数…在留資格上の「永住者」の数。特別永住者は含まない。」 （参考）記載を残す理由 永住者が増えるということは、本市が外国籍市民等にとっても住みよいまちになっていると考える客観的な数値としてみることができるため。
本市に求められる政策 P4		
13	世界の優れた企業とあるが、SDGsを推進するようなという文言を具体的にいれるほうがわかりやすいかと思う。	①の本文 「世界の優れた企業」を 「SDGsの推進等に取り組む世界の優れた企業」に修正
16	都市間競争という言葉を使用しているが、「競争」という言葉はあまり使わない方がいいかと思う。他都市と競り合っていくという考え方を京都がいつまで持っているのかと感じている。例えば、文章の中で、「…の競争が激しくなるなか」と書かれているが、「…の選択肢が広がるなか」といった表現に変えてはどうか。	情報技術の発展や世界の都市の成長により、世界中の都市が人材獲得や企業誘致などに力を入れていることから、他都市を意識しながら戦略的に都市を成長させていく必要があると考え、「競争」という言葉を使っている。 上記を踏まえつつ、①の本文 「国際会議誘致の競争が激しくなるなか、世界に向けて」を「国際会議誘致の競争が激しくなり、 <u>選択肢が広がるなか</u> 、世界に向けて」に修正。
国際的な事業を展開する意義 P5		
48	P.5 国際的な事業を展開する意義の一番下の図に具体例をいれる方がいい。	「多様な価値観に触れる機会の創出」の下に以下を追加 市内学生と留学生や研究者との交流、 地域活動などへの外国籍市民等の参加促進 ＜以下も同時に追加修正＞ 「国際社会における都市ブランドの向上」の下を以下に修正 地球環境問題における京都市の取組の発信、 国際会議における京都市の魅力の発信 「海外活力の取り込み」の下を以下に修正 海外の研究者や技術者等の受入れ環境の整備、 市内の伝統産業等の海外展開支援

49	「レジリエンス」(P4, 7), 「MaaS」(P5 下), 「エコシステム」(P9)等の表現は外国籍の人も含め, 市民はわかるだろうか。その内容は否定するものではないが, あえてこうした言葉を使う必要性は低いと思う。	レジリエンス, (イノベーションの創出を促す)エコシステムについては, 本市にとって重要案な取組であるため記載を残す。 そのうえで, レジリエンス(P4)については, P7 で詳しく説明。 エコシステム(P9)については, 以下の説明を枠外に追加。 「複数のスタートアップ企業や, 大企業, 投資家等の多様な関係者が結びつき, 循環しながら広く共存共栄していく仕組み」
その他		
56	P2, 6, 8, 9 の「国際的な人々」という表現にやはり違和感を持つ。ここで言う内容では「グローバル人材」「多様な人材」が適切だと思う。	「国際的な人々」を 「多種多様な人々」に修正

第2章 戦略ビジョン

番号	意見要旨	御意見に対する考え方
本市が目指す国際都市像 P6～8		
1	P.6 第2章戦略ビジョン1の中にある, グローバル企業という書き方は, SDGsを推進するような優れた企業などの書き方が良いのでは。	「留学生やグローバル企業」を 「留学生や <u>SDGs等を推進するような企業</u> 」に修正
国際都市像 3 P11		
38	取組の方向性の3について, グローバル社会という言葉も少し古い感じがする。SDGsとの関連からも例えば, ローカルとグローバルを結ぶ場所で活躍するなどにするのはどうか。	「グローバル社会で活躍する担い手の育成」を 「 <u>グローバルな視点をもって地域の発展に貢献する担い手の育成</u> 」に修正
45	交流拠点として, 京都市国際交流会館と京都市地域・多文化交流ネットワークサロンが紹介されているが, 京都の誇る国際交流の拠点である京都大学と国立京都国際会館を抜きに戦略ビジョンは立てられないのではないか。4 施設の相互連携や京都市の施策の融合を深めてはどうか。	P14 推進体制に大学や企業, 市民との関係図を挿入 ※枠外にイメージを記載しています。
49	小さいうちから世界に目を向ける機会を持つということで, 「学生」だけでなく「児童生徒」または「子ども」という言葉が入るといいと思う。	P11 の① 「グローバル社会で活躍する担い手の育成」の文章内を 「 <u>京都市内の児童・生徒や学生が国際感覚を持てるよう, 留学生や海外からの研究者と交流・議論できる場の創出や</u> 」とする。
57	P11 の3 「海外で開催される国際会議等への現場職員の参加を推進します」のところ, 国際会議は国内でも多く開催されているので, 「国内外で開催される」が良いと思う。また, これからはハイブリッド主流になると思うので, オンラインでの参加も含めると良いと思う。	P11 の③ 「海外で開催される」を 「 <u>国内外で開催される</u> 」に修正
59	職員の育成については, 「海外で開催される国際会議等への参加を推進」とあるが, 財政が厳しい側面もあるので, 身近に参加できる場に対して, 積極的に職員の参加を促進すべきではないか。 また, 最後の「…参加を推進します。」という一文については, 「…参加を進めるとともに, 情報共有を行います」	P11 の③「京都市の国際展開を支える職員の育成」内の文章最後, 「～で開催される国際会議等への現場職員の参加推進」を 「～で開催される国際会議への現場職員の参加の <u>推進及びその内容の共有を進めます。</u> 」に修正。

	す。」のように、国際会議等に参加する職員だけでなく、その他の職員に対しても積極的に情報共有していくことを明記すべきではないか。	
国際都市像 4 P12		
61	多文化共生政策の総合的な推進→取組としてイメージしにくいので、もう少し内容を具体的に記載した方が良いと思う。いろいろなものをここに入れられるので取組例として曖昧すぎる表現だと思う。	P12 取組イメージ内の「多文化共生政策の総合的な推進」については、同ページ内の取組の方向性を包括した表現であるため、取組イメージから削除。
76	日本語多言語支援の教育と就労支援のみの記載では新たな時代に少しあっていないような気がする。もう一歩踏み込んで、生涯豊かな生活を送れるような学びの機会を支援することもセットで書き込んで頂けるといいなと思った。	P9 国際都市像 1 の③を以下の内容に修正 外国人研究者、企業で働く外国籍の方やその家族に対して、子育て支援に係る多言語対応や教育環境の充実を図るとともに、留学生の受入れ環境の整備を進め、安心して学習・生活できる環境づくりを行います。また、より心豊かな暮らしを送ることができるよう、文化・芸術をはじめとした京都の精神性に触れる機会を提供します。
100	④の外国籍市民等の地域での就労支援に、進学や生涯学習支援とセットで書くのはどうかと思う。	第 2 章 76 と同じ対応
104	外国籍市民等の地域での就労支援について取り組みイメージをみると留学生だけに見える。もし外国籍市民に対するものもあるならば新しい取り組みになるのでむしろイメージに併記記載した方が良いと思う。	P12 取組イメージに 「外国人雇用促進支援」を追加。
105	P.12 下の段の一番下の「留学生と企業がつながる機会等の創出等の就職・採用支援」という日本語表現が少し変に感じる。	同箇所を「留学生と企業がつながる機会の創出等の就職・採用支援」に修正
その他		
111	取組のイメージに具体的な事業がかかっているが、既に実施されているものが多い。イメージというタイトルは合わない。マレーシアにおけるというのが限定的。	取組イメージは、取組の方向性をより理解していただけるように記載しているものであるため、既に取組を進めているものも記載している。 ご指摘の「マレーシアにおける」の箇所については、 「海外都市における」に修正

第3章 指標・推進体制

番号	意見要旨	御意見に対する考え方
指標 P13		
25	「外国籍の住民基本台帳登録者数」に関して、「永住者数」をわざわざ掲げる理由が分からない。（せめて「永住者」の定義・説明が欲しい。）	第1章 7 と同じ対応
戦略ビジョンによる国際的な事業の推進体制 P14		
41	実施体制が、京都市、京都市の外郭団体による一方の事業が多く、市民や外国人住民の参画が見えにくいように思う。地域社会、地域団体や企業、NPO などの様々なステイクホルダーと協働や連携していくことが京都市市民の理解・意識向上につながるとともに実施の担い手の育成にも大きく寄与すると思う。そういっ	第2章 45 と同じ対応

	たプランがあれば、ビジョンに明確に記載すべきだと思う。以前の国際化推進プランでは協働や連携について触れられていたが、新ビジョンでは数カ所であつ、協力・交流という表現にとどまっている。	
42	推進体制にあまり市民とかが意識されていないような気がする。	第2章 45 と同じ対応
43	ワーキンググループなど、外国語をそのままカタカナにすると分かりにくいので、できるだけ日本語で、誰が読んでもすぐに理解できるように説明する方が良いのではないかと。	「ワーキンググループ」を「部会」に修正。 エコシステムについては説明を追加(再掲)

その他

番号	意見要旨	御意見に対する考え方
4	姉妹都市がどこでいつから交流していてこれからどんな交流するのかの情報が欲しい。	P10 に姉妹都市との周年の年表を追加。
5	姉妹都市やパートナーシティがどこで、いつ周年がくるかがわかりやすくあると、中期的な計画が立てやすい。	P10 に姉妹都市との周年の年表を追加。
6	全体として、「多文化共生」の視点が弱く、その記述が少ないと感じる。主要な項目・タイトル等に「多文化共生」の言葉が全く出てこないのは、寂しい限りである。市民にとって分かりにくい「レジリエンス」などに紙幅を割くのではなく、「多文化共生」に関連する記述を充実、「見える化」する必要がある。	以下の部分に「多文化共生」を追記 P2「ウィズコロナ時代の国際交流・多文化共生のあり方」 P2, 6, 8, 11 国際都市像 3「さまざまな世代で国際交流・多文化共生の意識が高まり、国際感覚をもった人が育つまち」 P6 国際都市像 3 の説明内 「国際交流・多文化共生の中核的施設である京都市国際交流会館」 P11 の②「世界的な感染症の拡大などで～国際交流や多文化共生の取組が途絶えることのないよう～」
15	市内には、京都大学の吉田国際交流会館もあり、「国際交流会館」という名称だけでは、京都市国際交流会館以外の施設と誤認されるおそれがある。P12には京都市国際交流会館という文言もあるため、こちらの記載もそれに合わせてはどうか。	P11 取組イメージ内の 「国際交流会館における交流イベントの実施」を 「京都市国際交流会館における交流イベントの実施」に。
19	京都の国際交流の拠点である京都迎賓館・国立京都国際会館・京都大学・同志社大学・立命館大学に関する記述がほとんどない。	第2章 45 と同じ対応

P14 に追加する図（案）

